

Rafiki 通信

2026年8月31日

第12号 大下 泰治

Mambo! 日本では、まだまだ暑い日が続いている時期でしょうか。私の住む地域は相変わらず、朝晩と冷え込むことが多いですが、日中は日差しが強く、暑いなと思うことが多いです。タンザニアも少しずつ暑い時期に近づいており、昨年のような暑さが今年も来るのかと考えるとなかなかつらい気持ちになります。

8月はほとんど活動をお休みして、日本が支援している学校や他の協力隊員の活動先にお邪魔し、いろんな活動を見させてもらいました。その中で、多くの方々とお話しすることができ、少しずつですが、自分の気持ち・モチベーションを立て直せたかな?と思います。今回は、学校訪問の様子をご紹介します。

協力隊員の活動先訪問



小学校5年生の算数の授業を行っている隊員。
スワヒリ語がペラペラすぎて、もはや現地の先生が授業をしているのかと思うレベルです。



中学校で体育の授業をされている隊員。
実技指導というものが少ない中で、模索しながら活動されていました。(写真は、砲丸投げの実技。)



小学校3年生の算数の授業を行っている隊員。
計算カードや掲示物など、「自分も真似したい」と思う工夫をたくさんされていました。また、日本文化紹介の一環として、「書道」を行っていました。自分も手本を書かせてもらいました。(右の写真)



同じタンザニア国内の学校であっても、学校によって雰囲気異なり、面白かったです。隊員のいる学校とオンライン交流とかしたいな…。

また、同じ学校現場だとしても、隊員の持っている知識・経験が異なるため、活動における「正解」はないのかなと思います。なので、自分のできる範囲で、できることをやっていくしかないと思います。

それぞれの場所で、様々な悩みを抱えながら、活動している隊員を見て、「自分も頑張ろう」と思えました。

さくら女子中学校への訪問

さくら女子中学校 (Sakura Girls Secondary School) は、アルーシャにある、日本の市民協力によって設立された学校です。2016年1月に開校、2026年7月に高等部 (A Level) が開設されました。この学校は、理数系教育・リーダー養成・日本とタンザニアの交流に力を入れています。そのため、さくら女子中学校には日本から高校生や数学の先生、農業の専門家など、さまざまな方が学校を訪問されています。

今回の訪問では、数学の授業を見学したほか、日本支援で建てられた新しい校舎も見学させていただきました。また、過去の隊員が作成した紙芝居「桃太郎」をスワヒリ語で読み聞かせしました。タンザニアの中学生と関わる機会もなかったのも、非常に新鮮で、楽しい時間を過ごせました。生徒たちと日本文化を通して、交流ができ、普段の小学校での活動とはまた違った経験になりました。



数学授業の見学



紙芝居「桃太郎」の読み聞かせ
Sakura Girls Secondary School (さくら女子中学校)

美味しいものこそ正義!!



天井



ピザ



ビビンバ

ここ2カ月くらい、いろんなことを考えすぎて、正直めちゃくちゃしんどかったです。それでも、いろんな人と話していく中で、「自分がやりたいこと」を見つけていこうって考えるようになりました。

今まで1人で何とかしようとしていた算数の授業も同僚を頼るようにして、自分は補助的な役割に回るようにしました。そうしたことで、「今までなんでこんなに意地張って、誰にも頼らなかったんやろ」と思いました。自分で勝手に壁を作って、自分を追い込んでたんだなって思います。たぶん、日本にいたらこんな思いはしてなかったです。ほんと、貴重な経験ができてるとなと思います。

活動の中で、やりたいことも固まりつつあり、これから先はそれを実行していだけです。いろいろと遠回りしてきましたが、ようやく自分の活動の活路が見えてきたなという感じです。やったるぞ!